

とれる!

多収性品種情報 No. 1

令和元年6月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

田植え後の高温・多日照により分けつ旺盛 ～中干しは茎数確保状況を見て遅れずに開始～

生育概況

草丈: やや長 茎数: やや多～多 葉数: やや早～早 (指標値比)

○早生品種の多くは5月上旬までに移植され、早植えが徹底された。

○5月は全般に高温・多日照で推移したため生育の進みは早く、分けつ発生も旺盛となっている。

*生育の進みが早いため、中干し遅れによる過剰生育が懸念されます。分けつ発生状況を頻繁に確認し、中干し開始が遅れないように注意しましょう。なお、茎数の少ないほ場では、当面浅水管理により分けつの発生を促進しましょう。

多収性品種生育調査ほの生育概況 (5月30日現在)

品種	調査場所	田植日	草丈 cm (指標値比 %)	茎数 本/m ² (指標値比 %)	葉数 葉 (指標値差 葉)
ちほみのり	村上市小口川	5月2日	29 (116)	260 (158)	7.6 (+1.6)
	村上市八日市	4月29日	32 (128)	139 (84)	6.5 (+0.5)
	平均	5月1日	31 (122)	200 (121)	7.1 (+1.1)
ゆきん子舞	村上市名割	5月9日	28 (104)	182 (110)	5.8 (-0.2)
つきあかり	関川村上野新	5月5日	33 (122)	205 (164)	7.1 (+1.6)
	関川村下関	5月3日	27 (100)	159 (127)	5.5 (±0.0)
	村上市十川	5月1日	27 (100)	240 (192)	7.3 (+1.8)
	平均	5月3日	29 (107)	201 (161)	6.6 (+1.1)
新潟次郎	村上市宿田	5月3日	28 (104)	160 (97)	6.7 (+0.7)

当面の病害虫の防除対策 ～いもち病・斑点米カメムシ類～

- 多肥栽培条件では、抵抗性の強弱に関係なくいもち病が発生しやすくなります。育苗箱施用剤を使わなかった場合は、6月上旬頃に予防粒剤を本田散布しましょう。
- ほ場に放置した補植苗は、葉いもちの伝染源となるので、速やかに除去しましょう。
- カメムシの増殖場所である休耕田や農道・畦畔などの雑草地では、雑草が結実しないよう、6月上旬から3週間程度の間隔で草刈りしましょう。
- 近年発生が多いアカスジカスミカメは本田内のヒエやホタルイでも繁殖します。取りこぼし雑草の対策も徹底しましょう。
 - 周辺の品種との出穂期の差が大きい場合や「ちほみのり」「ゆきん子舞」など割れ粳の発生しやすい品種では、斑点米被害が集中することがあるので特に注意しましょう。

中干し・溝切りはしっかり実施！

- 当面、高温で推移する確率が高いと予報されていて、全般には分けつの急増や過繁茂が予想されますが、一部で強風やワキの影響などにより生育の劣るほ場もみられます。必ず茎数確保状況を確認し、適期に開始しましょう。
- 品種ごとの目標穂数を確認し、目標穂数の80%（過剰生育になりやすい地域は70%）の茎数を確保したら直ちに始めましょう。
- 中干し開始が遅れると生育過剰となり、乳心白粒等未熟粒の増加や病害の発生等の品質低下を招きます。
- 中干し効果を高めるために、溝切りは適期に確実にいきましょう。

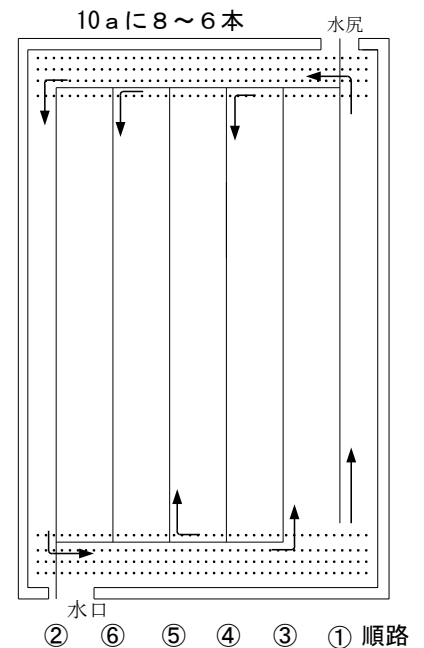
品種別中干し開始時期のめやす

品 種	㎡当たり 目標穂数	中干し開始時の茎数のめやす（目標穂数の80%）		
		㎡当たり本数	株当たり本数	
			坪 60 株植え	坪 70 株植え
ちほみのり	570	450	25	21
ゆきん子舞	440	350	19	17
つきあかり	400	320	18	15
あきだわら	370	300	16	14
新潟次郎	450	360	20	17

＝溝切り・中干しの様々な効能＝

- ① 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保
- ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減
- ③ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ④ 収穫時の機械作業が容易な地耐力の確保
- ⑤ 作溝によりフェーン等の緊急時の迅速なかん水が可能
- ⑥ 作溝により秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能

- 溝切りの際は、接続部分を手直しするとともに、必ず水口及び水尻につなぎましょう。
- 中干しは田面に小ひびが入り、軽く足跡が付く程度まで行いましょう。
- 根を広く張らせて登熟向上を図るために、遅くとも出穂1か月前までに終了しましょう。
- 砂質土壌や地力の低いほ場では、弱めの中干しとしましょう。



溝切りの順序



中干しの強さは、小ヒビが入る程度（左の写真程度）。

